

Title	臨床哲学 第19号 編集後記／執筆者／奥付
Author(s)	
Citation	臨床哲学. 2018, 19
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/68172">https://hdl.handle.net/11094/68172</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 編集後記

昨年末の発刊予定が大幅に遅れ、年度末になってしまった。理由は、編集作業を技術的にサポートしてくれる人材がいなかったこと、それにも関わらず無理して In-Design で編集しようとしたことである。結局、途中で全部 Word に切り替え、編集作業を最初からやり直した。執筆者の皆さんに、また読者の皆さんに、お詫びを申し上げる次第である。

さらに、雑誌の今後についても記しておかなければならない。今年度（2017年度）、臨床哲学研究会を継続するかどうかについて議論した。長年（とりあえず）続けてきた研究会の趣旨が見えにくくなっていること、また（主に大学院生による）運営体制の維持が難しくなっていることなどから、一旦リセットすることになった。これに伴い、研究会と連動させてきた雑誌『臨床哲学』も一旦休刊する。来年度は東アジア哲学会議（2018年1月29日開催）での発表原稿を「特別号」として掲載する予定ではあるが、その後の20号の発刊予定は今の時点ではない。

研究活動・社会活動の新しい試みを発信する場として、臨床哲学研究会や雑誌『臨床哲学』を支持し活用しようとしてくださる人々も、少なくないに違いない。そうした人々に対して、本当に心苦しいかぎりである。しかし、臨床哲学の活動が終わったわけではない。ある種の惰性で続けるよりは、研究会や学術雑誌（査読付き）という発信媒体を「欠く」ことで、今一度何が必要なのかを考え直す機会になろうかと期待する。（堀江）

**執筆者**（執筆順、所属等は執筆時のもの）

永浜 明子（大阪大学大学院文学研究科 博士後期課程）

横田 恵子（神戸女学院大学文学部 教授）

大北 全俊（東北大学大学院医学系研究科 助教）

堀 寛史（藍野大学医療保険学部理学療法学科 講師）

**Irina Poleshchuk**（ヘルシンキ大学社会科学部 Post Doctoral Researcher）

浜渦 辰二（大阪大学大学院文学研究科 教授）

ほんま なほ（大阪大学 CO デザインセンター 准教授）

前原 なおみ（大阪大学大学院文学研究科 博士後期課程）

栗田 隆子（働く女性の全国センター 代表）

服部 佐和子（国立循環器病研究センター医学倫理研究部 流動研究員）

三ツ田 枝利香（大阪大学大学院文学研究科 博士前期課程）

**Lisa Folkmarson Käll**（ストックホルム大学 民族学・宗教史・ジェンダースタ  
ディーズ学部 准教授）

青木 健太（大阪大学大学院文学研究科 博士後期課程）

『臨床哲学』19

2018年3月31日 発行

編集・発行

大阪大学大学院文学研究科臨床哲学研究室

560-8532 豊中市待兼山町 1-5

TEL: 06-6850-5099

Mail: rinsho@let.osaka-u.ac.jp